

株式会社アルプス技研

(東京証券取引所市場第一部 証券コード:4641)



2013年12月期 決算説明会

2014年2月17日

代表取締役会長 兼 社長

牛嶋 素一

1. 決算の概要と主要指標の推移

2. 2014年の主要施策

3. 2014年12月期 業績予想



1. 決算の概要と主要指標の推移

【連結・個別】業績ハイライト

(単位：百万円)

【連結】	2012年12月期	2013年12月期	増減率
売上高	17,460	18,097	3.6%
営業利益	1,162	1,070	△7.9%
経常利益	1,223	1,089	△10.9%
当期純利益	603	651	8.0%

(単位：百万円)

【個別】	2012年12月期	2013年12月期	増減率
売上高	15,374	15,476	0.7%
営業利益	1,184	1,105	△6.7%
経常利益	1,261	1,188	△5.8%
当期純利益	644	707	9.8%

【連結】 外部環境

1. 製造業各社の動向

- 円安定着により、輸出企業の業績が伸長
- 自動車関連企業ではエコカー等の研究開発が旺盛
- 同じ業界内でも業績が二極化、一部企業にて残業規制実施

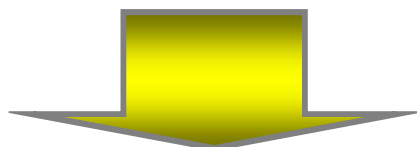
2. 業界動向

- 年度後半は技術者ニーズが増加し、**高稼働率が継続**
- キャリア採用環境は競合が厳しく、引続きタイト
- 平成25年8月、「今後の労働者派遣制度の在り方に関する研究会」での報告書を取りまとめ後、労働政策審議会での議論を経て、労働者派遣法改正法案が国会へ提出予定

【連結】 主要施策(1)

施策① 技術者数の増加

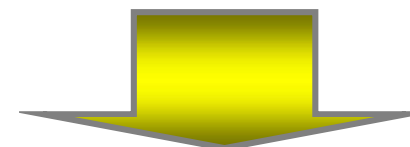
- ・採用部門の増強
- ・退職防止、リテンション活動の継続
- ・グループ連携採用の強化



- **技術者数 増加に転じる**
- 2014年新卒230名
- 2013年キャリア採用70名

施策② 営業力の強化

- ・営業力の底上げ
- ・営業マニュアルの徹底活用
- ・有望顧客/成長顧客の開拓、規模拡大

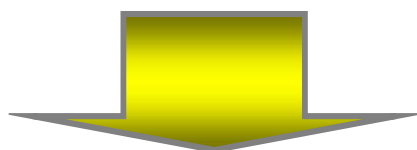


- **平均稼働率上昇 +0.4%**
(2012年平均 93.6% ⇒ 2013年平均 94.0%)
- **新卒稼働の早期化**

【連結】 主要施策(2)

施策③ チーム化推進

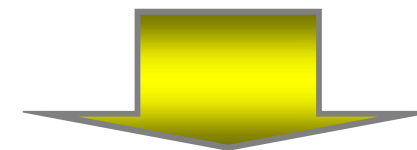
- ・チーム数と規模の拡大
- ・チームリーダーの育成、最適配置
- ・新卒早期稼働に向けチーム化推進



- チーム数の増加
- チームリーダー向け実践研修
- チームレベルの向上

施策④ グループ戦略

- ・介護事業/施設拡大に伴う売上増加
- ・職業紹介事業/事業本格化
- ・海外ビジネスの拡大



- アルプスの杜「かみみぞ」オープン
- ACD順調にスタート
- 東南アジアへの展開準備

【備考】 ACD・・・アルプスキャリアデザインング

【トピックス】 労働者派遣制度の改正について

1. 改正のポイント

●改正についての基本的な考え方

- ・労働者、派遣元・派遣先に分かりやすい制度
- ・キャリアアップや直接雇用の推進による雇用安定の促進
- ・業界全体の健全化（優良事業者の育成）

（1）登録型派遣・製造業務派遣

- ・雇用への影響等を鑑み、禁止せず。
- ・雇用安定措置等を講ずる。

（2）特定労働者派遣事業

- ・全ての労働者派遣事業を許可制へ。許可基準も厳格化。

（3）派遣可能期間制限

- ・業務による区分から、雇用形態による区分へ

【トピックス】 労働者派遣制度の改正について

2. 当社への影響

①無期雇用の派遣労働者⇒



全ての業務で派遣可能期限(3年)が無くなることにより、新卒の稼働等、幅が広がる。

②特定派遣事業の許可制化⇒



業界再編の動きが予想される。

**当社にとってのデメリットはない。
メリットを最大限生かし、事業規模拡大へ**

当社の教育システム(技術研修)

高度技術研修

専門技術研修

新技術・新分野への対応や、技術関連スキルを段階的に習得する研修

資格取得向け研修

若手技術者を中心とした技術力向上の基礎となる資格取得を推進する研修

先端技術研修

先端技術に関するニーズに合わせた研修(ロボット、ビッグデータ等)

キャリア開発・マネジメント能力研修

キャリア開発研修(新入社員向け)

新入社員に対し、社会人の第一歩として、キャリア開発の動機づけを行う研修

キャリア開発研修(3年・5年次向け)

入社3年・5年次に、再度キャリア開発への意識づけを行い、キャリアアップを促進する研修

リーダー育成研修

マネジメント能力を習得し、チームをまとめる事が可能なリーダーを育成する研修

技術マネージャー研修

技術マネージャーの能力向上を図り、技術者の育成活動の促進を図る研修

顧客向け 技術研修

カスタマイズ研修

お客様のニーズに特化した技術研修

新入社員向け 技術研修

新入社員技術研修

新入社員がアルプスエンジニアとして活躍するための基礎技術研修

N1グランプリ

新入社員技術研修の達成度や成果を確認する発表会

●各研修に関連した拠点勉強会の実施(年間1,000回以上) ●通信教育の受講

当社の教育システム(ヒューマン研修)

新入社員向け ヒューマン研修

新入社員合宿研修

学生から社会人への意識変革・規律性・コミュニケーションスキル・チャレンジ精神の習得

経済知力研修

情報を活用する上で必要となる、基礎知識の習得

ビジネスマナー・CS研修

社会人の基本である「挨拶」「言葉づかい」などのマナー研修、CSに対する意識の習得

コンプライアンス研修

コンプライアンス意識の向上を図るため、法令・企業倫理などに関する知識の習得

管理職 ヒューマン研修

新任管理職研修

管理職としての意識形成、問題発見力、解決力、コミュニケーションスキルの習得

管理者能力養成研修

管理者としての意識向上やスキルの習得

トップマネジメントセミナー

経営管理に関する知識の習得および起業家精神の習得

その他 ヒューマン研修

海外研修

各国の現状(産業、経済、歴史、文化等)を体感し、グローバル感覚を育成

日経TEST

経済の仕組みや流れを理解したビジネスリーダーを目指す社員の育成を推進

●社内コミュニケーションの活性化や技術力の向上を目的とした行事

アルプスロボットコンテスト

技術者がチームを組んでものづくりの技術を競う

Honda エコマイレージチャレンジ

1リットルのガソリンでどれだけの距離を走れるか、毎年参加し、挑戦を続けている

【個別】 損益計算書

(単位：百万円)

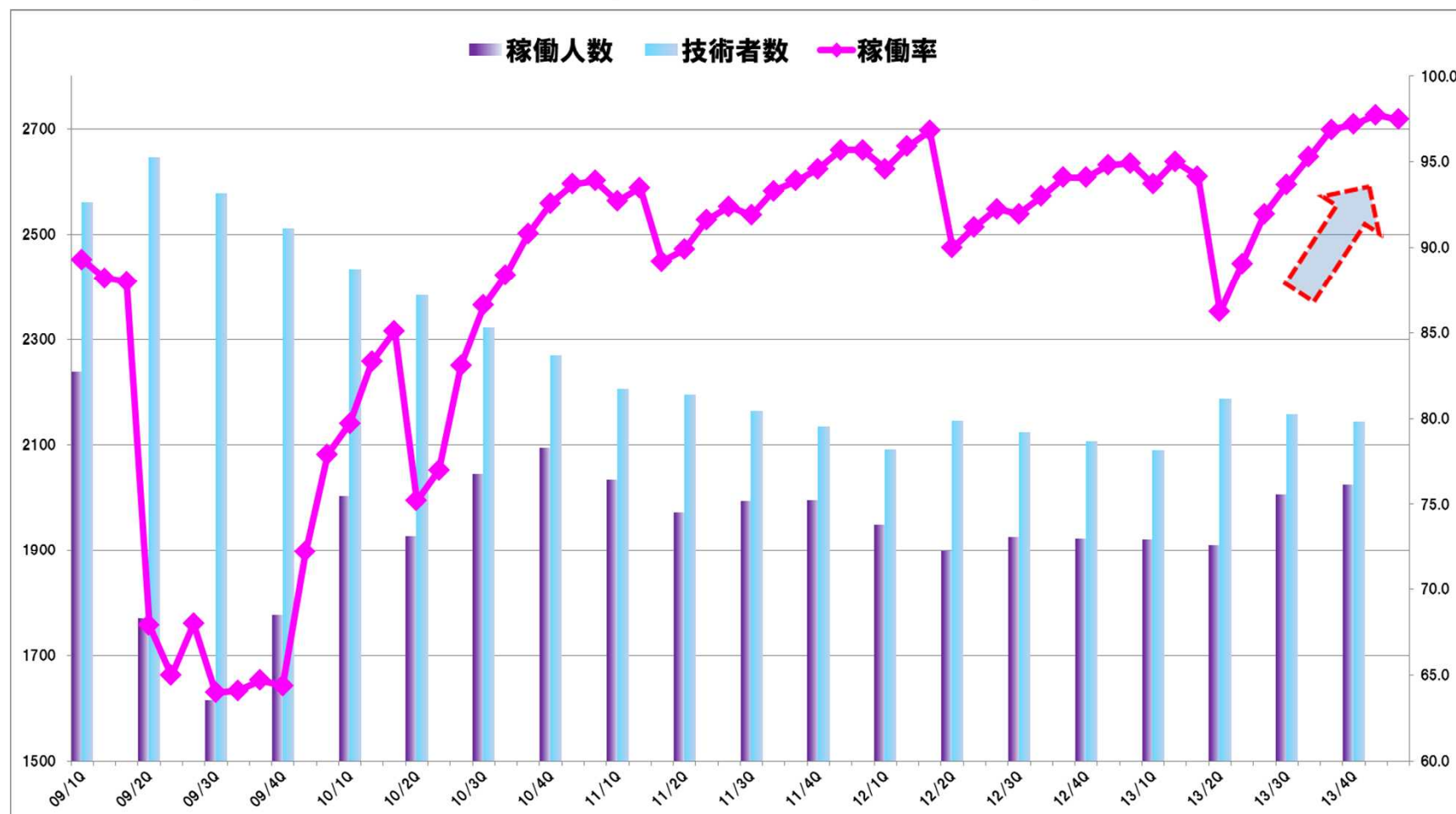
	2012年12月期	2013年12月期	増減率	前期比増減理由
売上高	15,374	15,476	0.7%	稼働率の上昇・新卒採用増に伴う稼働人数の増加
売上原価	11,080	11,273	1.7%	社会保険料率引上等により原価率上昇
売上総利益	4,293	4,202	△2.1%	
販管費	3,109	3,096	△0.4%	創業45周年記念関連の販管費が増加するも、その他で抑制
営業利益	1,184	1,105	△6.7%	
営業外収益	126	134	6.5%	
営業外費用	50	52	5.0%	
経常利益	1,261	1,188	△5.8%	
特別利益	12	0	△97.1%	
特別損失	35	17	△50.3%	
税引前当期純利益	1,238	1,171	△5.4%	
当期純利益	644	707	9.8%	法人税等減少によるもの

【個別】業績 四半期比較

	単位	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			累計		
		2012年	2013年	前年 差異	2012年	2013年	前年 差異	2012年	2013年	前年 差異	2012年	2013年	前年 差異	2012年	2013年	前年 差異
売上高	百万円	3,919	3,682	△ 237	3,802	3,838	35	3,705	3,894	189	3,947	4,060	113	15,374	15,476	101
営業利益	百万円	322	223	△ 99	268	224	△ 44	240	280	39	352	377	25	1,184	1,105	△ 78
稼働率 (全社)	%	95.8	94.3	△ 1.5	91.2	89.1	△ 2.1	93.0	95.3	2.3	94.6	97.5	2.9	93.6	94.0	0.4
平均 契約単価	円	3,515	3,567	53	3,559	3,581	22	3,560	3,545	△ 14	3,564	3,555	△ 9	3,549	3,562	13
稼働工数 (月)	H	174.7	167.5	△ 7.2	174.7	173.1	△ 1.5	167.2	170.2	3.0	176.7	177.9	1.2	173.3	172.2	△ 1.1

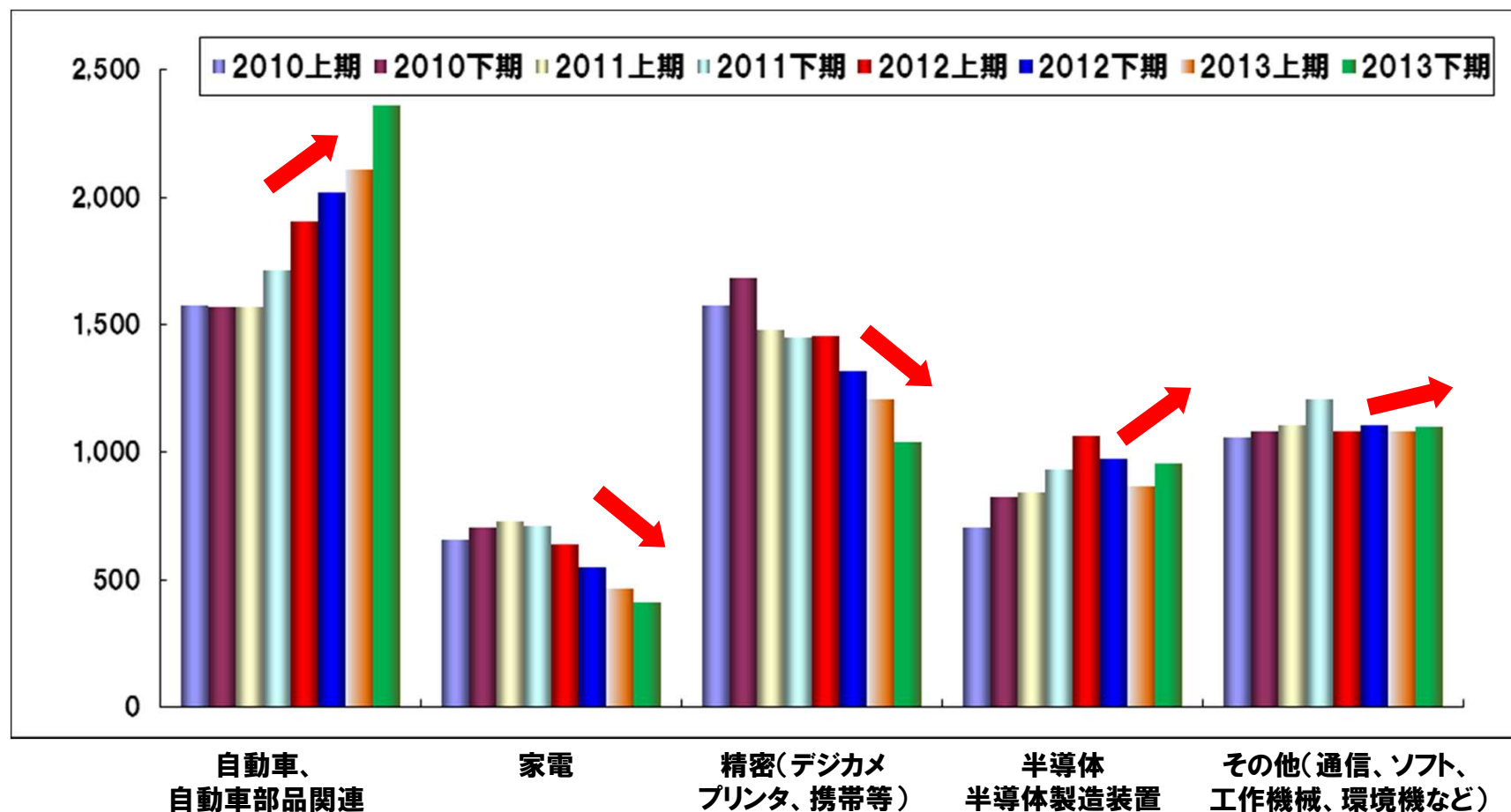
【個別】 稼働率・稼働人数・技術者数の推移

※①「稼働人数」…四半期毎の稼働人数(人) ②「技術者数」…四半期毎の技術者総数(人) ③「稼働率」…月当たりの新卒を含む全社稼働率(%)



- 稼働率は2009年3Qがボトム。2010年3Q後半に90%を超え、本格的な回復基調に入った。
- 2010年以降、採用手控えの影響で技術者数が減少したが、2013年4月、新卒147名採用により、技術者数は増加に転じた。2013年上期より、稼働人数も増加基調で推移。

【個別】 売上上位100社 業種別売上高推移



- 自動車関連の要請は引き続き堅調、売上へも大きく寄与。
- 家電、精密機器関連は、減少傾向が続く。
- 半導体関連は、下期に入り増加に転じた。

【個別】売上高上位10社

2011年度	2012年度	2013年度
デンソーテクノ	デンソーテクノ	デンソーテクノ
東京エレクトロンAT	キヤノン	キヤノン
キヤノン	日産自動車	東芝
パナソニック	東芝	日産自動車
セイコーエプソン	パナソニック	日立オートモティブシステムズ
パナソニック システムネットワークス	東京エレクトロン宮城	日野自動車
シャープ	ケーヒン	パナソニック
トヨタ自動車	日立オートモティブシステムズ	ケーヒン
ケーヒン	三菱重工業	三菱重工業
三菱重工業	トヨタ自動車	アイシン精機
上位10社比率 29.7%	上位10社比率 27.7%	上位10社比率 26.4%

- ・全売上に占める上位10社の売上比率の減少が進む。
- ・自動車関連のウェイトが増加。



2. 2014年の主要施策

施策① 技術者数の増加

- 採用強化
 - ・2015年新卒／260名、2014年キャリア／120名
 - ・採用担当者を主要都市に増強
- 退職防止
 - ・プロジェクトチーム(ESP)のリテンション活動を継続
 - ・技術やスポーツ関連行事を通じた社員間の交流

施策② 営業力の向上

- 新卒早期稼働
 - ・迅速かつ効率的な営業活動の実施
- 単価アップ
 - ・顧客ニーズに合わせたカスタマイズ研修
 - ・継続的な単価交渉の実施
- 顧客の選択と集中
 - ・優良顧客、成長顧客との取引拡大
 - ・新規ターゲット顧客との取引開始

施策③ チーム力の向上

○チーム化

- ・高度技術に対応したチーム力の醸成
- ・チームマネジメントの強化（チームリーダー研修）

施策④ 新規事業の収益力強化

○新たな事業の柱づくり

- ・既存事業の収益力強化（アルプスの杜、ACD）
- ・企業規模拡大に向けた新規事業の柱づくり



【連結】 グループ戦略

施策⑤ グループ戦略

●アウトソーシングサービス事業／(株)アルプスビジネスサービス

- ・安定的な黒字体質の継続、収益力の向上

●介護事業／(株)アルプスの杜

- ・介護付有料老人ホーム 3棟、グループホーム1棟のサービス向上
- ・営業強化による入居率向上

●職業紹介事業／(株)アルプスキャリアデザインング

- ・グループ連携のもと、事業本格化
- ・2014年度中の黒字化

●グローバル事業／アルテックシャイン、アルテック上海

- ・グローバル事業の拡大(東南アジア圏、ミャンマーへの進出を検討)
- ・エンジニアリングサービスを軸とした安定受注、関連技術サービスの強化



3. 2014年12月期 業績予想

連結業績予想

(単位:百万円)

【連結】	実績		業績予想			
	2013年度通期		2014年度上期		2014年度通期	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	18,097	3.6%	9,300	7.6%	19,300	6.6%
営業利益	1,070	△7.9%	500	26.9%	1,340	25.2%
経常利益	1,089	△10.9%	500	26.7%	1,350	23.9%
当期純利益	651	8.0%	290	33.3%	800	22.7%

※業績予想の数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

個別業績予想

(単位:百万円)

【個別】	実績		業績予想			
	2013年度通期		2014年度上期		2014年度通期	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	15,476	0.7%	7,800	3.7%	16,250	5.0%
営業利益	1,105	△6.7%	490	9.4%	1,220	10.3%
経常利益	1,188	△5.8%	530	11.3%	1,310	10.3%
当期純利益	707	9.8%	310	11.3%	750	5.9%

※業績予想の数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

○配当基本方針

- ①連結ベースでの配当性向50%を指標とする
- ②中間配当金を安定的に10円とする
- ③安定配当の見地から、年間配当1株20円は維持する

○第34期配当予想

中間配当	期末配当	年間配当
10円	28円	38円